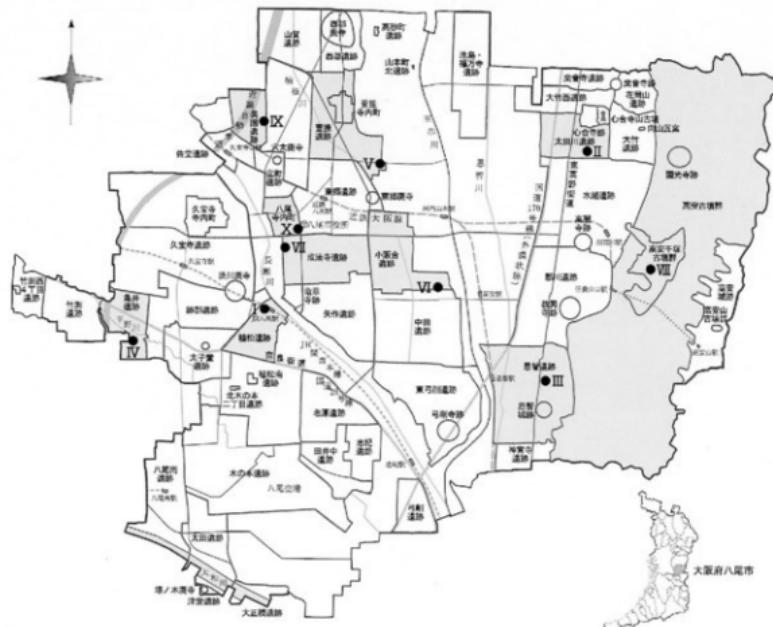


- I 植松遺跡(第13次調査)
- II 太田川遺跡(第3次調査)
- III 恩智遺跡(第25次調査)
- IV 亀井遺跡(第17次調査)
- V 萱振遺跡(第30次調査)
- VI 小阪合遺跡(第45・46次調査)
- VII 成法寺遺跡(第26次調査)
- VIII 高安古墳群(第7次調査)
- IX 美園遺跡(第9次調査)
- X 八尾寺内町(第6次調査)

2014年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

- I 植松遺跡（第13次調査）
- II 太田川遺跡（第3次調査）
- III 恩智遺跡（第25次調査）
- IV 亀井遺跡（第17次調査）
- V 萱振遺跡（第30次調査）
- VI 小阪合遺跡（第45・46次調査）
- VII 成法寺遺跡（第26次調査）
- VIII 高安古墳群（第7次調査）
- IX 美園遺跡（第9次調査）
- X 八尾寺内町（第6次調査）



2014年

I 植松遺跡第13次調査(UM2013-13)

1. はじめに

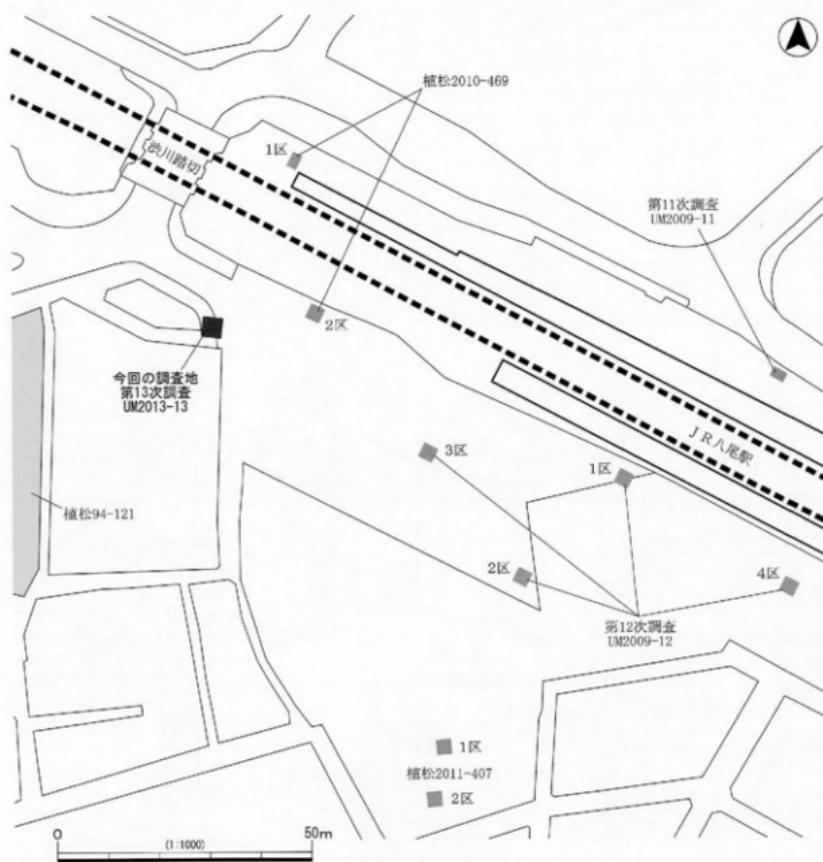
植松遺跡は八尾市南西部に位置する遺跡である。その範囲は東西約0.8km・南北約0.8kmにおよび、現在の行政区画では安中町4丁目・植松町3~8丁目・永畠町2・3丁目にあたる。地理的には旧大和川の主流であった古長瀬川と古平野川の分岐点付近に位置しており、遺跡範囲中央部に古平野川の自然堤防が形成されている。この自然堤防上の西部には、跡部遺跡・太子堂遺跡・龜井遺跡・竹測遺跡などが連なって成立している。



第1図 調査位置図

当遺跡発見の経緯は、昭和56(1981)年に八尾市教育委員会が永畠町2丁目で行った発掘調査(S56市教委。調査時は植松南遺跡と呼称)で、平安時代前期の掘立柱建物や溝からなる居住域が検出されたことによる。その後、大阪府教育委員会・財団法人大阪府文化財センター・八尾市教育委員会・当調査研究会によって、多次にわたる調査が行われているが、大規模な調査は遺跡南部の国道25号沿いに集中しており、中央～北部では下水道工事等に伴う小規模な調査や遺構確認調査が散発的に実施されている状況である。

南部での主要な調査成果として、弥生時代前期の水田や古墳時代前期の集落が検出されている。また古墳時代後期～平安時代前期では、遺跡範囲を北東～南西に横断する古平野川と考えられる埋没河川が確認されており、その規模は最大で150mを超える川幅が推定されている。



第2図 調査区位置図



調査地(西から)



機械掘削(南西から)



調査状況(東から)



第1面全景(南から)



第2面検出状況(南から)



第2面全景(東から)



西壁



北壁

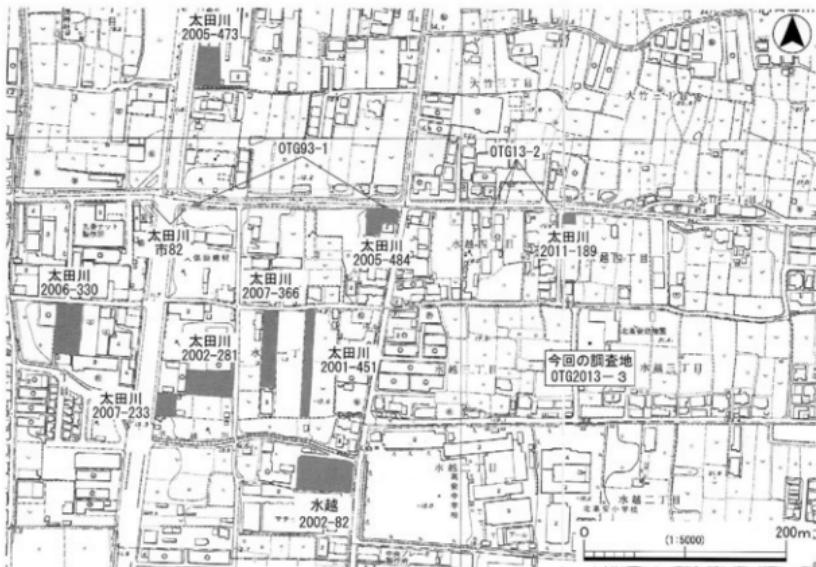
II 太田川遺跡第3次調査(OTG2013-3)

1. はじめに

太田川遺跡は八尾市の北東部に位置し、現在の行政区画では大竹1・3・4丁目、水越1・3・4丁目、西高安町1・2丁目の、南北約500m・東西約850mがその範囲とされている。地理的には生駒山西麓の扇状地先端部にあたり、西流する太田川と水越川に挟まれた地域であり、同地形上において北側で大竹西遺跡、心合寺山古墳、心合寺跡、東側で大竹遺跡、南側で水越遺跡に接している。

当遺跡が認識されたのは、昭和15(1940)年3月、東高野街道改修工事の際、滑石製勾玉・弓筈状木製品等を含む地層が確認されたことによる。そして八尾市教育委員会により昭和56(1981)年に立会調査、さらに昭和57(1982)年には最初の発掘調査(太田川市82)が実施され、前者では古墳時代包含層、後者では弥生時代後期の遺構・遺物を検出した。その後も遺構確認調査や小規模な発掘調査が市教委・当調査研究会によって継続的に実施されており、当遺跡は弥生時代～中世の遺跡として認識されている。

今回の調査地北西部では、当研究会が第1次調査(OTG93-1)を実施しており、縄文時代晩期、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期、奈良時代に亘る遺構・遺物を検出している。なかでも古墳時代後期の溝から出土した滑石製有孔石製品の未完成品は、周辺の水越遺跡・大竹西遺跡といった玉造関連遺跡との関係を考える上で注目される資料である。



第1図 調査地位置図

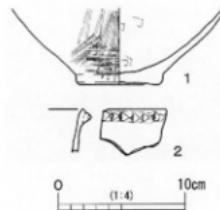
3) 検出遺構と出土遺物

【第1面】

調査区東端の2層上面(T.P.+19.5m)で溝1条(SD1)を検出した。南北方向に延びる溝の西脇を検出したもので、幅50cm以上、深さ最大約40cmを測る。埋土はブロック状の単層で、耕作関連の溝と考えられる。近世の磁器や平瓦が少量出土しており、時期は近世である。

【地層内出土遺物】

4層からは弥生土器、須恵器、瓦器、陶器、6層からは弥生土器、8層からは縄文土器、弥生土器が出土した。このうち1・2を図化した。1は6層出土の弥生土器壺底部である。外面には体部に縦位、底部付近に横位～斜位のヘラミガキを施す。中期の所産であろう。2は8層出土の縄文土器深鉢の口縁部である。口縁端部外面に刻み目を施した突帯を巡らせるもので、晩期の長原式に比定される。



第4図 出土遺物



2

3.まとめ

調査では遺構や明確な生活面は確認されなかったが、縄文時代晩期～弥生時代の遺物包含層を検出した。西部で実施した第1次調査(OTG93-1)や太田川遺跡(2005-484)においても該期の包含層や土器が確認されており、周辺に該期の集落域が存在する可能性が高いと考えられる。古墳時代以降では近世の耕作土や耕作関連遺構を確認した。

参考文献

- 坪田真一 1994「III 太田川遺跡第1次調査(OTG93-1)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告42』財団法人八尾市文化財調査研究会
- 西村公助 2003「5 太田川遺跡(2001-451)の調査」『八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告48 平成14年度国庫補助事業』八尾市教育委員会



調査地(西から)



機械掘削(南東から)



調査状況(南東から)



2層上面(北から)



6層上面(北から)



8層上面(北から)



北壁



南壁

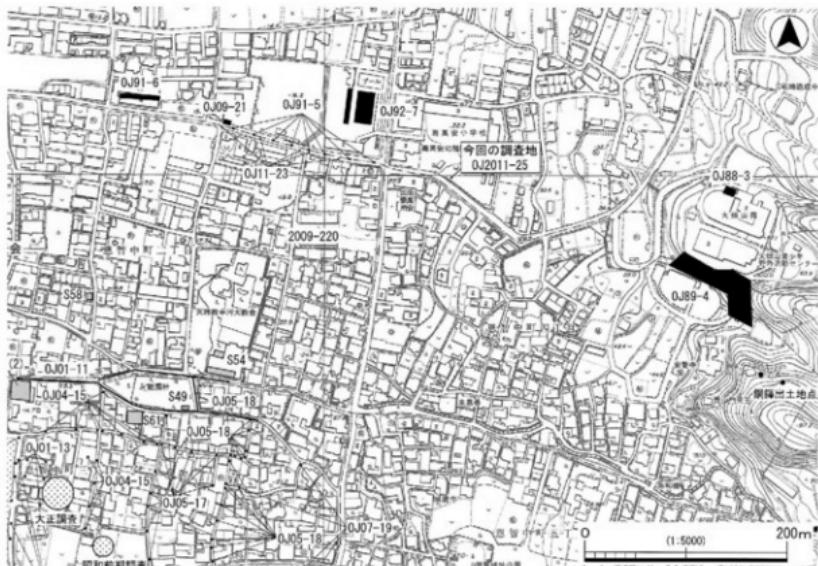
III 恩智遺跡第25次調査（O J 2011-25）

1. はじめに

恩智遺跡は、八尾市南東部に位置する旧石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、恩智北町1～4丁目、恩智中町1～5丁目、恩智南町1～5丁目にあたり、南北約1.0km、東西約1.2kmがその範囲とされる。地理的には生駒山地西麓に形成された扇状地から低地部にかけて広がっており、周辺では、北側に郡川遺跡、南側に神宮寺遺跡、西側に玉串川を挟んで東弓削遺跡が存在する。

本遺跡については、古くは大正6年(1917)の梅原末治・鳥田貞彦両氏による踏査と鳥居龍藏氏による試掘調査、昭和14年(1939)の大阪府の事業に伴う藤岡謙二郎氏の発掘調査、昭和23年(1948)の今里幾次氏による出土遺物の報告等がある。そして昭和50～53年(1975～1978)には恩智川改修工事に伴う大規模な調査が瓜生堂遺跡調査会により実施された。これらの調査により当遺跡は縄文時代～弥生時代を中心とした遺跡として認識されている。近年も天王の杜周辺とその南～南西側、北側を中心に多くの発掘調査が行われ、本遺跡は天王の杜周辺から北西～西側を中心に展開していたことが判明している。

今回の調査地は遺跡範囲の中央北東部にあたる。周辺では西部で当研究会が第5・7・23次調査を実施しており、古墳時代中期・中世の遺構・遺物を確認している。



第1図 調査位置図



調査地(南東から)



機械掘削(西から)



1層上面(西から)



南壁



南壁下部



調査状況(北から)

IV 亀井遺跡第17次調査(KM2012-17)

1. はじめに

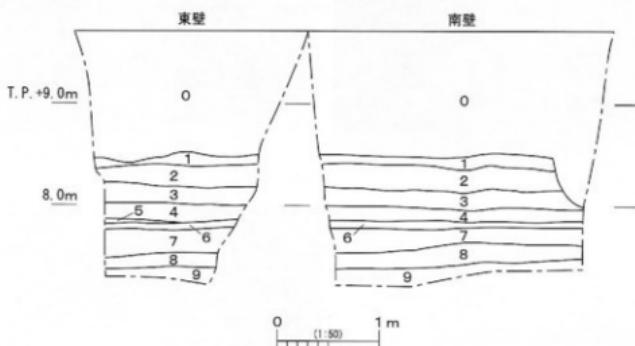
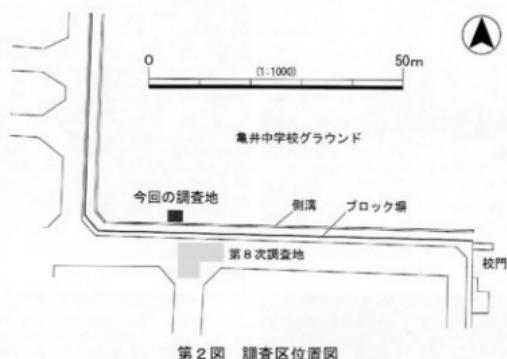
亀井遺跡は八尾市の南西部、現在の行政区画では、亀井町1～4丁目及び南亀井町1～5丁目の東西約0.6km、南北約0.8kmがその範囲と推定されている。地理的には旧大和川水系の主流であった長瀬川と平野川に挟まれた低位冲積地上に立地する。周辺では北部に久宝寺遺跡、東部に跡部遺跡、西部に竹渕遺跡、南部に大阪市長原遺跡などが位置する。

本遺跡は、昭和43(1968)年の大阪中央環状線建設に先立つ平野川改修工事が行われた際、多量の弥生土器が出土したことによりその存在が確認され、大阪府教育委員会(以下、府教委)による第1次調査が実施された。そして昭和44(1969)年の大阪中央環状線建設予定地内における遺跡範囲確認調査以後、昭和53(1978)～56(1981)年には長吉ポンプ場建設及びこれに関連した平野川改修工事に伴う発掘調査、昭和63(1988)年には平野川改修工事に伴う発掘調査が府教委により実施された。また(財)大阪文化財センター(現、公益財団法人大阪府文化財センター)では、近畿自動車道建設に伴う確認調査を昭和48(1973)年に、そして昭和54(1979)～61(1986)年には本調査を実施している。こうした大規模な調査に加え、八尾市教育委員会や当調査研究会による小規模な調査も継続的に行われており、これらの結果、当遺跡は縄文時代～近世の複合遺跡であり、特に弥生時代においては中河内最大の拠点集落であったことが確認されている。

今回の調査地は遺跡範囲の南部に位置し、前述の府教委による平野川改修工事に伴う調査地(府1988)の南方約100mに位置する。周辺では南側道路部分で当調査研究会が下水道工事に伴う第8次調査(KM8)を、また南約200mでは第6次調査(KM6)を実施しているが、遺跡南部では大規模な調査は実施されておらず、遺跡の実態は不明な点が多い。



第1図 調査位置図



- 0. 盛土・搅乱
- 1. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂混シルト質粘土 旧耕土
- 2. 5BG5/1青灰色極細粒砂混粘土 搅拌作土
- 3. 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 Fe斑 搅拌作土
- 4. 2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土
- 5. 5Y5/2灰オリーブ色シルト～極細粒砂互層 水成層
- 6. 2.5Y5/1黄灰色シルト質粘土 土壌化層
- 7. 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 Fe斑 搅拌作土
- 8. 2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土 Fe斑 Mn斑 搅拌作土
- 9. 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂混粘土質シルト 土壌化層

第3図 断面図



調査地(北東から)



機械掘削(東から)



7層上面(南から)



最終面(西から)



東壁



東壁下部



南壁下部



調査状況(西から)

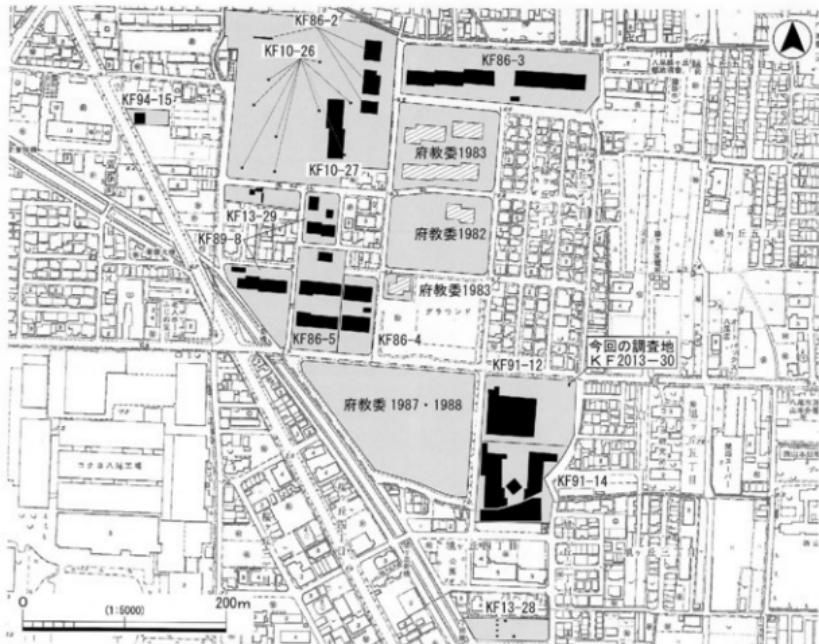
V 萱振遺跡第30次調査(K F 2013-30)

1. はじめに

萱振遺跡は、大阪府八尾市の北西部に位置し、緑ヶ丘1～5丁目、萱振町1～7丁目、北本町3・4丁目、楠根町1丁目の東西約0.5～0.9km、南北約1.1kmがその範囲とされている。地理的には、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた低位沖積地に位置している。

当遺跡は、遺跡範囲南東部の緑ヶ丘に存在した八尾競馬場[昭和5(1925)～15(1940)]跡地内において、昭和18(1943)年に防空壕を構築する際に、古墳時代中期の土師器片や子持勾玉が出土したことにより遺跡として認識された。昭和57(1982)年以降には、府営・市営住宅の建替えや、府立八尾北高校、市立生涯学習センター等の公共施設建設に伴う大規模な発掘調査や、公共下水道工事等に伴う小規模な発掘調査が、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、当調査研究会により実施されてきた。これら一連の調査の結果、当遺跡は弥生時代中期～鎌倉時代に至る複合遺跡であることが明らかとなっている。

主な調査成果を概観すると、遺跡範囲北部の府立八尾北高校建設に伴う発掘調査では、弥生時代後期～室町時代の遺構・遺物が検出され、古墳時代前期後半の「萱振1号墳」からは、鰐付円筒埴輪・朝顔形埴輪の他、韌形埴輪をはじめとする豊富な形象埴輪が多量に出土しており、古墳時



第1図 調査地位置図



調査地(北から)



機械掘削(南西から)



第1面検出(東から)



第1面(東から)



西壁



北壁



最終面(南から)



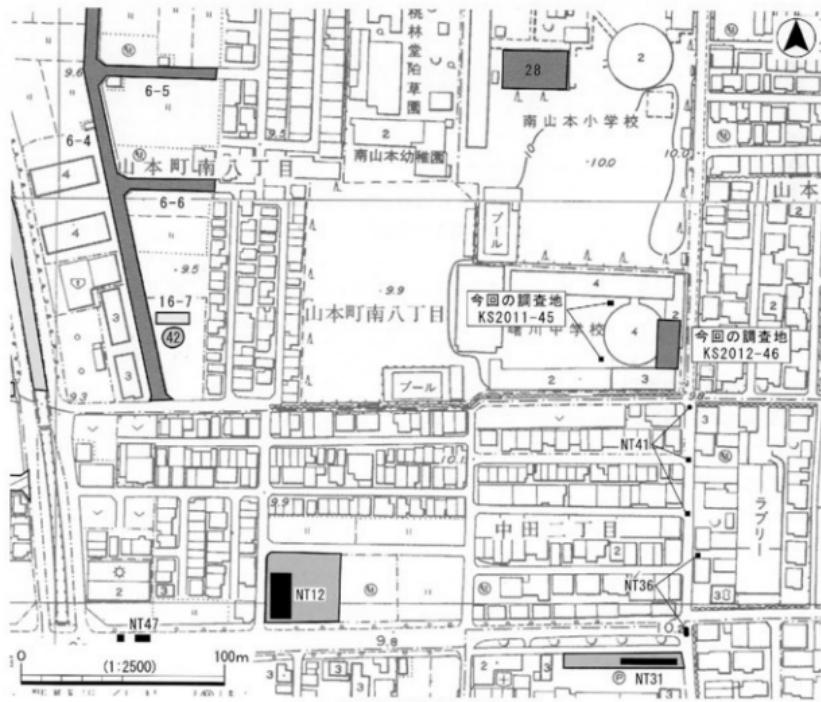
調査状況(南から)

VI 小阪合遺跡第45次調査 (K S 2011-45) 小阪合遺跡第46次調査 (K S 2012-46)

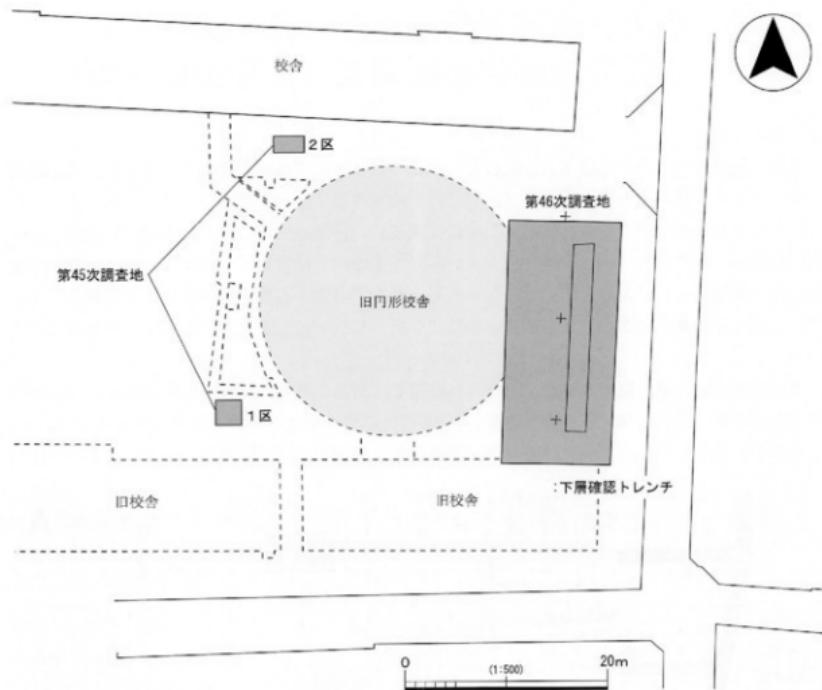
1. はじめに

小阪合遺跡は八尾市のほぼ中央に位置し、現在の行政区画では小阪合町1・2丁目、南小阪合町1・2・4丁目、青山町1~5丁目、若草町、山本町南7・8丁目がその範囲にあたる。地理的には旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置し、同地形上で東郷遺跡・成法寺遺跡・矢作遺跡・中田遺跡と接している。当遺跡内では昭和57年以降、土地区画整理事業等に伴う発掘調査が、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会により実施されている。これらの調査成果から、当遺跡は弥生時代中期から近世に至る遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は遺跡範囲南東部に当たり、周辺では北部で第28次調査、西部で第6次・第16次・第42次調査を、また南部では中田遺跡第31次・36次・第41次調査を当調査研究会が実施している。主な調査成果としては、第28次調査や中田遺跡第36次調査では弥生時代後期の方形周溝墓や土器



第1図 調査位置図



第2図 調査区位置図

棺墓からなる墓域が確認されている。また第42次調査の古墳時代初頭の溝から出土した船や鹿を描いた手焼き形土器は、絵画土器研究において重要な資料となっており特筆される。

2. 第45次調査の概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市立曙川中学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財遺構確認調査で、当研究会が小阪合遺跡内で行った第45次調査(KS 2011-45)である。

調査は建物建替え予定の隣接に2箇所の調査区を設定した。1区が $2.5 \times 2.5\text{m}$ 、2区が $2 \times 3\text{m}$ で、総面積は約 13m^2 を測る。

調査は現地表下約 2.5m までを確認する予定であったが、1区では大量の地下水が湧き出たため、約 1.8m 付近までしか調査ができなかった。2区では約 2m 以上の搅乱層(近年のゴミ穴)、及び1区と同じく大量の地下水により、搅乱部分のみの調査であった。

調査で使用した標高の基準は、調査地東部道路上に位置する四級基準点相当の八尾市街区多角補助点(1A235 : T.P. +9.624)を使用した。方位は工事設計図に準じた。

S D 3・S O 1

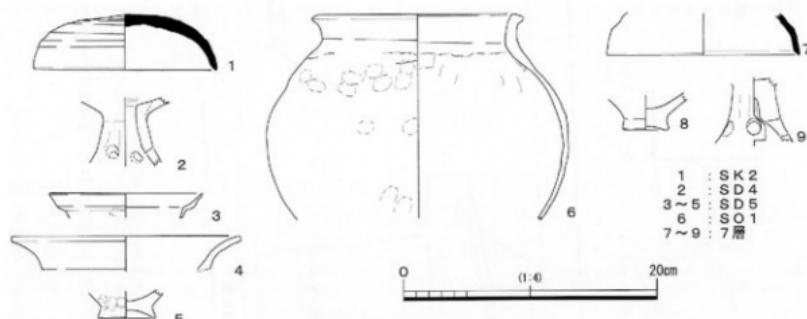
S D 3は南西部で検出した南北方向に延びる溝で、やや蛇行している。規模は検出長約10.1m・幅20~45cm・深さ約20cmを測る。断面逆台形で、埋土は S D 1と同じである。下位からの巻き上げと考えられる古墳時代初頭頃の土師器片が少量出土した。S O 1は南西部で検出した浅い落ち込みである。底部で S D 3が検出されたもので、埋土にも変化はなく両者は一連の遺構と捉えられる。平安時代後期の土師器、須恵器、瓦器が出土しており、6を図化した。6は土師器壺で、口径16.6cmを測る。調整は口縁部ヨコナデ、体部ナデで、体部外面には指頭圧痕が明晰に残る。外面は全体に煤けており使用品である。

S D 4

S D 3西側に平行して延びる溝で、規模は検出長約2.9m・幅約50cm・深さ約20cmを測る。断面逆台形で、埋土は単層である。下位からの巻き上げと考えられる弥生時代後期~古墳時代初頭頃の土器片が少量出土しており、2を図化した。2は器台の基部と考えられる。調整はヘラミガキで、脚部には四方孔を施す。弥生時代後期末頃に比定されよう。

S D 5

南部で検出した東西方向に直線的に延びる溝で、S D 2~4に切られる。規模は検出長約6.5m・



第5図 第46次調査出土遺物



1



6



1区上層調査(北から)



1区下層調査(北から)



1区機械掘削状況(東から)



1区北壁(南から)



2区全景(東から)



2区機械掘削状況(東から)



1区調査前(南西から)



2区調査前(東から)



調査地(西から)



機械掘削(北から)



全景(北から)



南部全景(北西から)



SK 1 検出(南から)



SK 1 北壁



SK 2 検出(東から)



SK 2 全景(北東から)



SK 2遺物出土状況(北から)



SK 2、SD 2南壁



SD 3・4南壁



SD 5東壁



下層確認トレンチ機械掘削(北西から)



下層確認トレンチ(北から)



調査状況(北から)



現地説明会風景(西から)

VII 成法寺遺跡第26次調査(SH2013-26)

1. はじめに

成法寺遺跡は八尾市のはば中央部に位置し、現在の行政区画では光南町1・2丁目、清水町1・2丁目、南本町1~4丁目、高美町1・2丁目、松山町1丁目、明美町1丁目、陽光園1丁目がその範囲とされ、東西約1.1km・南北約0.6kmに広がっている。地理的には旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地している。周辺では北側で東郷遺跡・八尾寺内町、東側で小阪合遺跡、南側で矢作遺跡・龍華寺跡に隣接し、西側には長瀬川が北流している。

当遺跡は昭和56年5月、八尾市教育委員会が光南町1丁目29番で実施した試掘調査により確認された遺跡で、以降大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われている。これらの調査成果から、当遺跡は弥生時代中期からの遺跡であることが知られている。

今回の調査地は遺跡範囲北西部にあたり、周辺では東部でS56-1市教委調査、第5次調査(SH89-5)、南東部で第17次調査(SH98-17)、北東部では第9次調査(SH91-9)の他、八尾寺内町第4次調査(YC2005-4)を、また北部・南部では小規模な遺構確認調査を実施している。主な成果としてS56-1市教委調査、第5・9次調査、八尾寺内町第4次調査では弥生時代後期～古墳時代後期の集落遺構が検出されており、古墳時代前期では方形周溝墓群や埴輪円筒棺からなる墓域が確認されている。



第1図 調査位置図

2. 調査概要

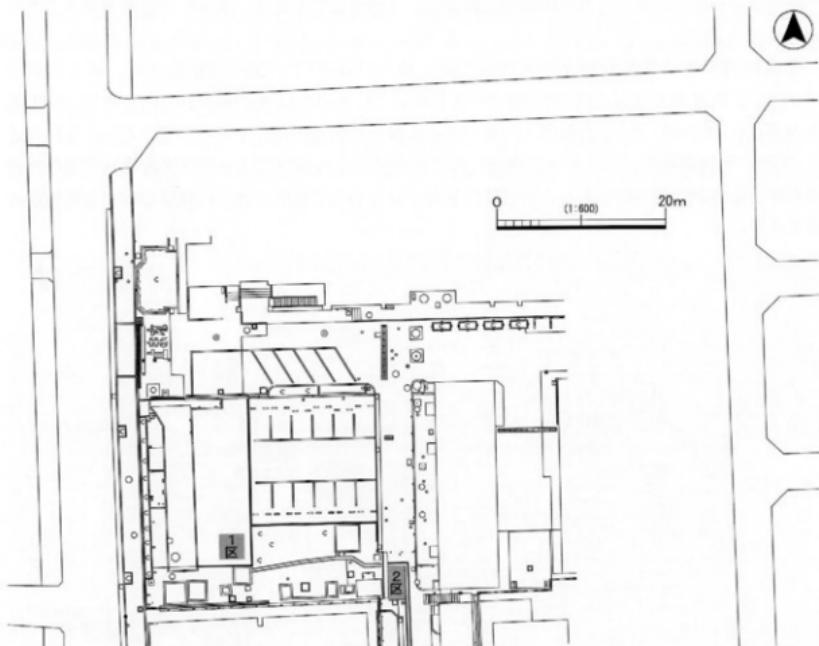
1) 調査の方法と経過

今回の調査は水道庁舎機能更新(耐震化等)に伴う遺構確認調査で、当調査研究会が成法寺遺跡内で行った第26次調査(S.H.2013-26)である。

調査区は2箇所(西から1・2区)で、平面形は1区が約3.0m×3.0mの正方形、2区が東西約2.0m×南北4.0mの長方形を呈し、総面積は約17m²を測る。

調査は現地表(約T.P.+10.0~10.2m)下約3.0mまでについて機械・人力掘削を併用して実施した。なお両調査区ともに既設構造物の基礎や配管等に当っていたため、1区では調査区東端の幅約0.9mについて、2区ではほぼ北半分についてのみ掘削が可能であった。

標高の基準は、西側道路上の八尾市街区補助点(3C321:T.P.+9.341m)を使用した。



第2図 調査区位置図



調査地(北西から)



1区機械掘削(西から)



1区全景(北東から)



1区東壁



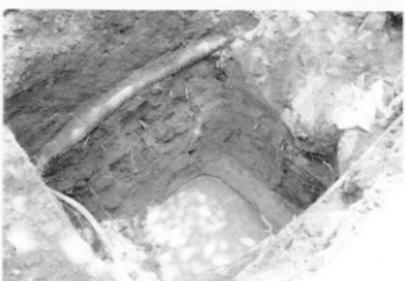
1区南壁



2区機械掘削(南東から)



2区全景(北西から)



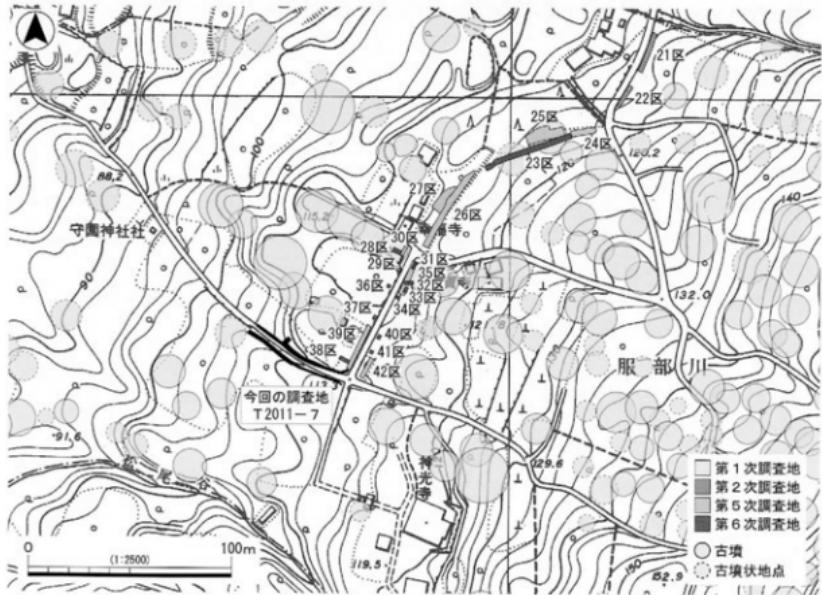
2区東壁・南壁

VIII 高安古墳群第7次調査 (T2011-7)

1. はじめに

八尾市の東部、生駒山地西麓一帯は、丘陵地や小規模な扇状地が複雑に融合した地形を呈しており、扇状地先端部から沖積地にかけては縄文・弥生時代からの遺跡(大竹西・水越・郡川・恩智遺跡等)が展開している。また古墳時代では前期～終末期の古墳が確認されており、これらは総称して高安古墳群と呼ばれている。なかでも古墳時代中期後半～終末期には、横穴式石室を主体部に持つ小円墳が尾根上に連なって群集墳を形成しており、総数323基が確認されている(平成24年3月現在)。そしてこのうち特に高い密度で古墳が分布する範囲については、新たに『高安千塚古墳群』とすることになった(平成24年度以降)。高安千塚古墳群は総数224基の古墳からなり、北から大塙・山畠支群、服部川支群、郡川北支群、郡川南支群に分かれている。今回の調査地は高安千塚古墳群の中でも最も古墳の密度の高い服部川支群内に含まれている。

高安古墳群では平成16～18年度に農道整備事業に伴い、北部の神立地区380m、南部の大塙・山畠・服部川地区420m、総延長800mに亘る調査(第1・2・5・6次)を実施している。調査では新たに神立8号墳(芝塚2号墳)、大塙・山畠29号墳、同46号墳、服部川132号墳の4基の古墳が発見されたほか、服部川12号墳の墳丘裾部では高安古墳群内で初めて外護列石の可能性がある巨石列が確認された。



第1図 高安古墳群服部川地区調査地位置図



調査地(西から)



調査地(東から)



1区機械掘削(西から)



1区調査状況(西から)



1区(東から)



1区SK2(南から)



1区SK3(西から)



1区北壁



2区西半(南から)



2区東半(西から)



2区西半東壁



2区東半北壁



2区東半北壁



3区機械掘削(西から)



3区西半(西から)



3区SK 205・206検出(西から)



3区SK205・206(南東から)



3区SK205(南から)



3区SK205・206(東から)



3区SK207(南から)



3区東半(西から)



3区掘削状況(西から)



4区機械掘削(北西から)



4区西半南壁



4区中央南壁



4区中央南壁



4区調査状況(北西から)



5区東半南壁



5区(東から)



5区(西から)



5区東部(北東から)



5区西半南壁

IX 美園遺跡第9次調査(MS2012-9)

1. はじめに

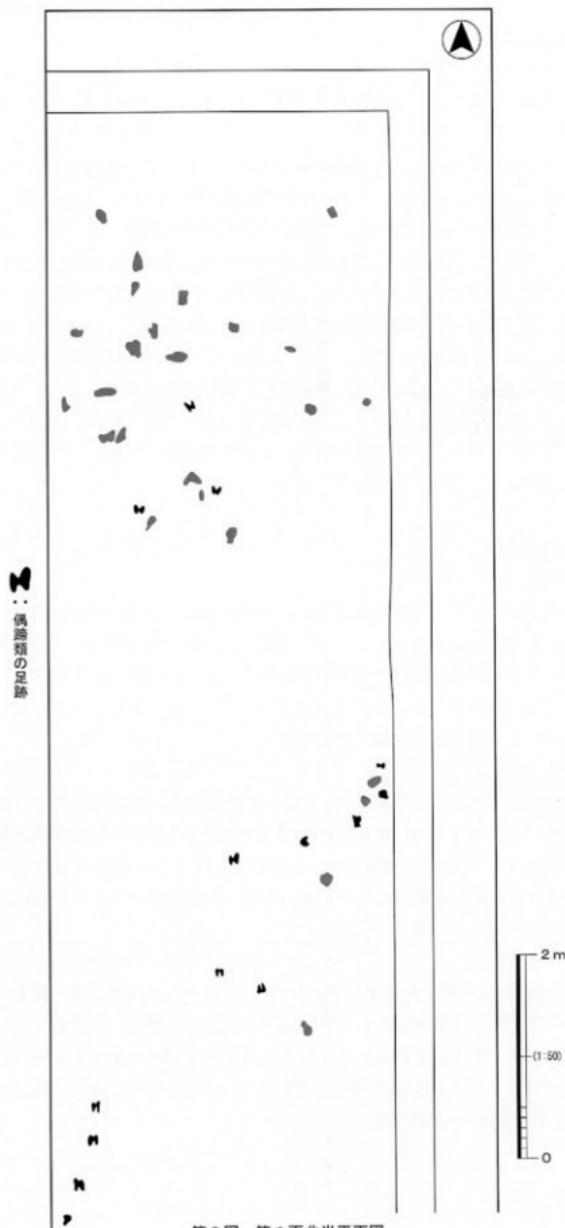
美園遺跡は八尾市北西部に位置し、現在の行政区画では美園町1～4丁目がその範囲とされており、遺跡範囲は南北約600m・東西約500mに及んでいる。地理的には旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地し、北側には友井東遺跡、南側には佐堂遺跡、宮町遺跡が隣接している。

当遺跡は、昭和50(1975)年に大阪府教育委員会が府道大阪中央環状線敷地内で実施した河内ライインガス導管布設に伴う発掘調査で発見された遺跡である。昭和53(1978)・54(1979)年度には八尾市教育委員会による最初の発掘調査が美園町2丁目において実施され(市教委S53・S54。当時は佐堂遺跡として調査)、古墳時代初頭～前期の壺棺や遺物包含層、古代～中世の遺物包含層等が確認された。そして昭和55(1980)～58(1983)年度には、近畿自動車道建設に伴う発掘調査が(財)大阪文化財センターにより実施され、縄文時代後期～近世の遺構・遺物が検出されている。なかでも古墳時代前期の方墳である美園古墳の検出は特筆され、検出状態のまま地中に保存されることとなり、周濠内出土の家形埴輪・壺形埴輪は重要文化財指定を受けている。

今回の調査地周辺では、前述の市教委調査や市教委S56の他、下水道工事に伴い当調査研究会が第1・2・4次調査(MS92-1・92-2・95-4)を実施している。これらの調査では弥生時代後期～古墳時代の遺構・遺物、平安時代の水田等が検出されている。



第1図 調査位置図



第3図 第1面北半平面図



調査地(南東から)



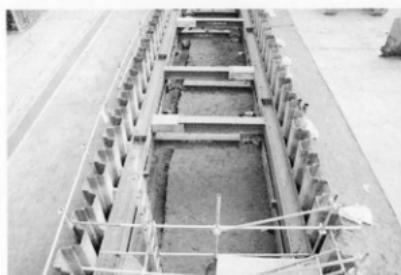
機械掘削(北東から)



北部上層南壁



南部上層北壁



第1面(北から)



第1面北西部足跡群(南東から)



第1面西部足跡群(東から)



第1面足跡(西から)



第2面NR201(南西から)



第2面NR201(南から)



第2面NR201北東角(南西から)



第3面NR301検出(南西から)



第3面NR301検出(北から)



第3面NR301(南西から)



第3面NR301(南から)



第3面NR301北東角(南西から)



北壁



東壁



下層確認トレンチ1機械掘削(南東から)



下層確認トレンチ1東壁



下層確認トレンチ2東壁



下層確認トレンチ3東壁



調査状況(北東から)



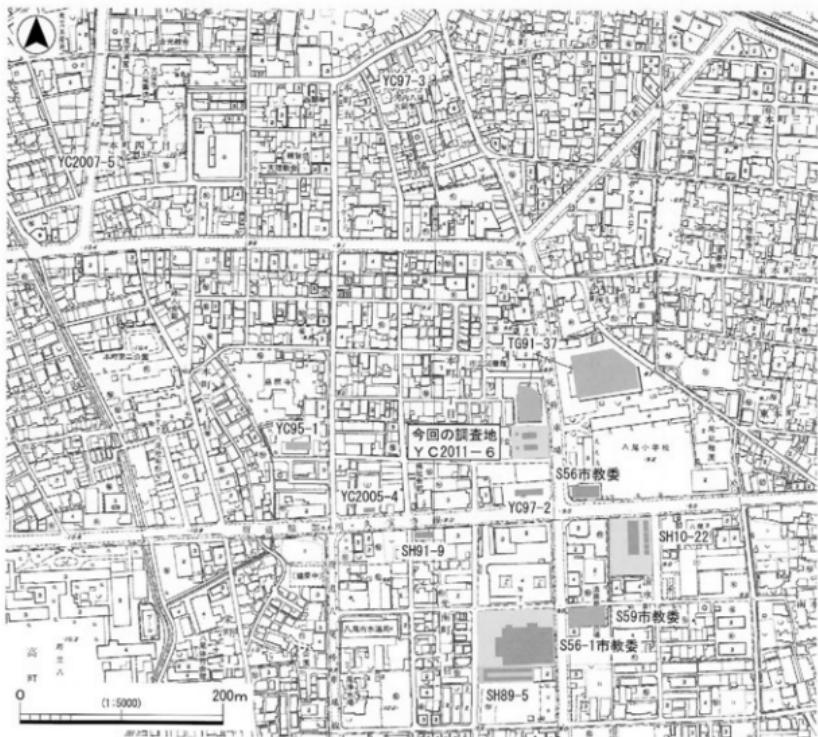
調査状況(東から)

X 八尾寺内町第6次調査 (YC2011-6)

1. はじめに

八尾寺内町は、八尾市北西部に位置する弥生時代中期以降の複合遺跡である。現在の行政区画では、八尾市本町2～5丁目の約500m四方がその範囲に当たり、旧大和川の主流であった長瀬川右岸の沖積地上に位置する。周辺では北側に宮町遺跡、東側に東郷遺跡、南側に成法寺遺跡が隣接する他、西側に旧大和川の主流であった長瀬川を挟んで久宝寺遺跡が所在する。遺跡範囲内の現地表の標高は、T.P. +8.3～10.5mを測る。

当遺跡名の由来となる八尾寺内町は、慶長11(1606)年に、森本七郎兵衛ら17人を主導者とする一部の久宝寺寺内町住人と慈願寺が久宝寺寺内町を出て、長瀬川(旧大和川本流)沿いの荒野の地を開拓し移住したことに始まる。この移住については、久宝寺寺内町において顕證寺の下代として、かつ久宝寺村の庄屋を務めていた安井氏の独裁的・專制的な特權行為に対抗したためであるが、その背景には本願寺の東西分派があったとされる。翌年には東本願寺の掛所として大信寺御



第1図 調査位置図

坊が建立され、やがて大信寺を中核とする寺内町が形成された。そして江戸時代後半以降、八尾の中核的な地域として発展してゆく。

今回の調査地は遺跡範囲の南東部に位置しているが、享保年間(1716~1735)作成と考えられる絵図『河内国若江郡八尾郷絵図』によると、寺内町を巡る環濠の外側にあたる。

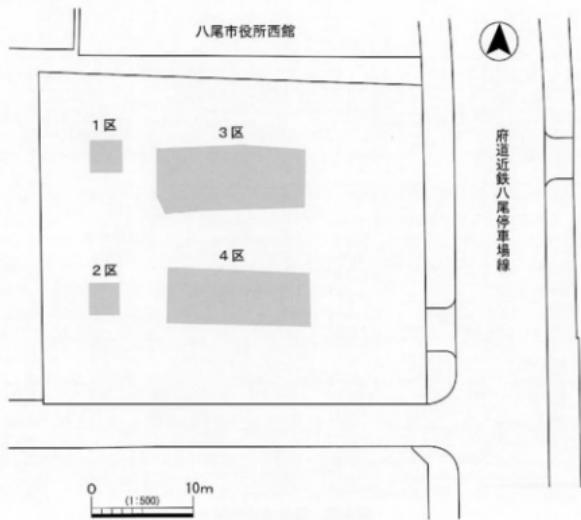
当遺跡内ではこれまでに、当研究会による第1~5次調査の他、小規模な造構確認調査が実施されている。第1次調査では竪穴住居等で構成された弥生時代後期末~古墳時代初頭の居住域を確認した。同時期の造構は第4次調査や南の成法寺遺跡(SH)第5・9次調査等においても確認している。第2次調査では古墳時代前期布留式期の造構を検出した。同時期の造構は東・北に近接する東郷遺跡(TG)第37次調査や市56年調査でも確認されていることから、今回の調査地一帯に該期の集落が展開していると考えられる。遺跡範囲北部の第3次調査では寺内町形成以前にあたる平安時代末~室町時代の集落造構が検出されている。

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は(仮称)八尾図書館等建設に伴う調査で、当調査研究会が八尾寺内町で行った第6次調査(YC2011-6)である。

調査区は4箇所で、約3.0×3.0m~2箇所(1・2区)、約6.0×14.0m~2箇所(3・4区)、総面積約186m²である。3・4区については当初9.0×20.0mの上幅を予定していたが、既設建物解体時の工法上の制約により縮小したものであり、総面積は予定の約378m²から減少している。また3区は北側に既設地下構造物が存在したため予定より南に移動している。



第2図 調査区位置図



調査地全景(東から)



1・2区調査地(南から)



1区全景(西から)



1区北壁



2区全景(南から)



2区西壁



2区調査状況(東から)



3・4区調査地(北西から)



3区基準点測量(西から)



3区スカイマスター使用状況(西から)



3区空中写真撮影状況(南西から)



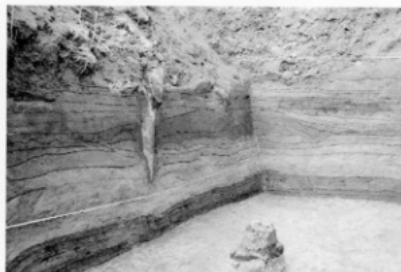
3区第1面(東から)



3区第1面航空写真(上が北)



3区第1面高まり101(北から)



3区高まり101南・西壁



3区第1面畦畔状造構(南西から)



3区調査状況(北西から)



3区第2面航空写真(上が北)



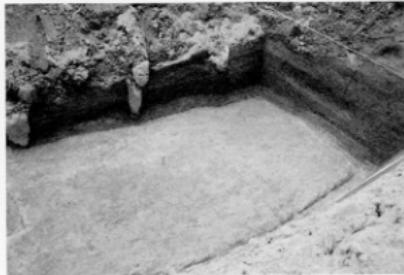
3区第2面(東から)



3区第2面S K 201(北から)



3区第2面S D 201検出(北東から)



3区第2面S D 201(北東から)



3区第3面(東から)



3区第3面西部(北東から)



3区西・南壁噴砂



3区調査状況(西から)



3区西壁



3区東壁



3区北壁



3区南壁



4区機械掘削(西から)



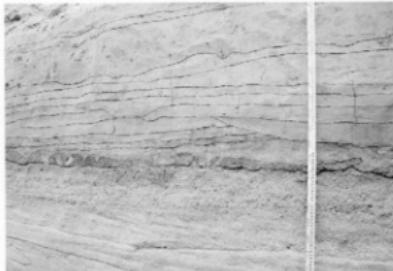
4区第1面(西から)



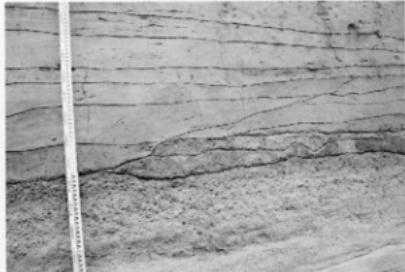
4区第1面SO 102・103(北東から)



4区第1面SO 104(東から)



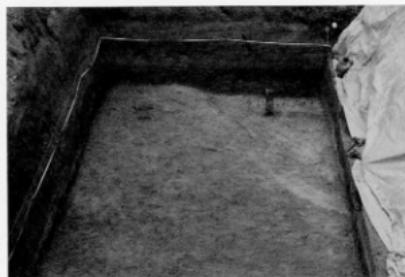
4区S O103南壁(西から)



4区S O104南壁(西から)



4区第2面(西から)



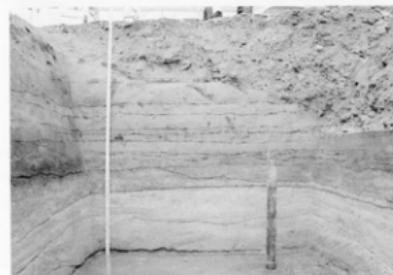
4区第2面 S D201(東から)



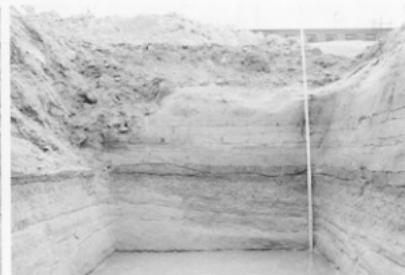
4区北壁



4区南壁



4区西壁



4区東壁

